

題 材 「ひとりぼっちはさびしい・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

友だちに素直な気持ちで接することの大切さを理解させる

2 場面設定

遠足で友だちと一緒に弁当を食べられるかどうか不安に思っている

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

仲よしのみさきちゃんとけんかをして、明日の遠足ではひとりぼっちにならないか心配していますね。

朝、目が覚めても、心配だね。

みなさんだったら、こんなときどうしますか？

□ 私は、みさきちゃんの顔を見たとき、「昨日はゴメンね」とすぐに謝ったそうですよ。

すると、みさきちゃんも「ゴメンね。私も心配で昨日は眠れなかったの。」と言ったそうです。

みさきちゃんも私と同じように、けんかをしてしまったことをすごく心配していたんですね。

□ 2人は、けんかをした次の日に、きちんと謝って、仲直りできました。それは、2人が自分が悪かったことに気が付いて、相手にその気持ちを伝えたからですね。

でも、「自分から謝るのは嫌だなあ」「謝ったら許してくれるのかなあ」「自分は悪くない」というような気持ちから、素直に謝ることができなくて、ずっとけんかが続いてしまうこともあります。

そうなったら嫌だよね。

□ 友だちとけんかすることはあります。

でも、そんなときは、お互いに謝って、仲よく過ごしたいよね。

ひとりぼっちはさびしい・・・

さそってくれるかな？
ひとりで食べるのはさびしいな



あすは、遠足です。

みんなは楽しみにしているよう
ですが、わたしは今ふとんの中
でなかなか寝られません。

それは、今日の帰りに、なかよしのみさきちゃんとけんかを
してしまい、明日の遠足のおべんとうのときに、ひとりぼっ
ちにならないか、ふあんでいっぱいだからです。

「明日は遠足に行きたくないなあ。」

「ひとりぼっちはイヤだよ。」

「でも、前から楽しみにしていたし。」

あす
明日はうまくなかなかおりできるかな？

題 材 「みんな、ゴメン・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

一つの目標に向かって、皆で協力・団結することのすばらしさを理解させる

2 場面設定

運動会のリレーでバトンを落としてしまった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

リレーでバトンを落としてしまった田中さんの辛い気持ちがよく伝わってきます。みんなで優勝をめざして頑張ってきたはずです。もちろん、田中さんも。

でも、残念ながら、優勝できませんでした。

□ この話には続きがあります。

運動会が終わって、担任の先生は、元気のない田中さんの様子をととても気にしていましたので、「運動会のリレーのこと、今日の終わりの会でみんなに話していい？」と聞きました。田中さんがうなずくと、先生は背中をぼんと叩いてくれました。

□ その日の終わりの会で、先生はこんな話をされました。

「みなさん、優勝できなくて残念だったね。あれだけ、頑張ってきたのにね。先生もみなさんと同じくらい悔しい。でも、一番悔しいのは誰だと思う？そう、田中さんだよ。

でも、今は、優勝よりも大切なものがあると思っています。

みなさんは、リレーの練習の時から、一秒でも早く次の人にバトンを渡そうと走り抜いたし、走り終えても、友だちを一生懸命応援しました。先生は、みんなが心を一つにして取り組んできたことが何よりもうれしかったんですよ。

もちろん、田中さんもみんなと同じ気持ちで一緒に取り組んできたんだよ。

□ そのとき、田中さんが立ち上がり、「みんな、ゴメンね」と言いました。

みんなは、笑顔でうなずいたそうですよ。

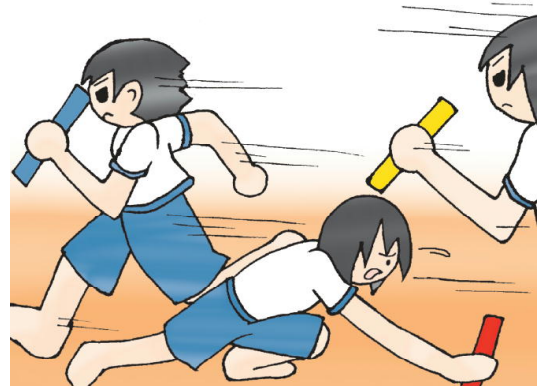
みんな、ゴメン・・・

みんながんばったのに
わたしのせいで優勝できなかった・・・

がっきゅう ぜんいん うん
学級たいこうの全員リレーは、運
どうかい まいとしいちばん も あ きょうぎ
動会で毎年一番盛り上がる競技です。
たなか ゆうしょう
田中さんのクラスでも、優勝をめ
ざして、ずいぶん前から練習に取り組
んできました。

うんどうかいとうじつ たなか でばん き
運動会当日。田中さんの出番が来
ました。1位でバトンを受け取り、走り出したそのとき、バトン
がその手からすべり落ちてしまいました。

けっきょく おと
結局、そのおくれを取りもどせず、優勝することはできません
でした。



「あーあ、最後のリレーだったのに・・・」

「とちゅうまで1位だったよねー。」

「あれさえなければねー。」

「思い出が一つ減ったね・・・」

そんなみんなの声に、田中さんの心はもうぼろぼろです・・・

題 材 「せいいっぱいやっているのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

皆で協力し合って一つのを創り上げる大切さを理解させる

2 場面設定

笛がうまく吹けないことを皆から責められる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、この資料を読んでどう思いましたか？

たて笛があまり得意でないわたしは、毎日、家でも練習しています。

でも、どうしてもうまく吹けないところがあります。

間違うたびに、周りの人から責められます。

□ そのときのわたしは、どんな気持ちでしょうか？

「みんなに迷惑をかけて悪いな」「なんとかしなくちゃ」という気持ちもあるでしょう。

でも、「自分だって毎日練習して頑張っているのに」「そんな言い方しなくてもいいじゃない」という気持ちも分かるよね。

□ 確かに、音楽会ではみんなすばらしい合奏をしたいよね。

でも、できない人を責めてもよいのでしょうか。

何かみんなを手伝ってあげることはないのでしょうか。

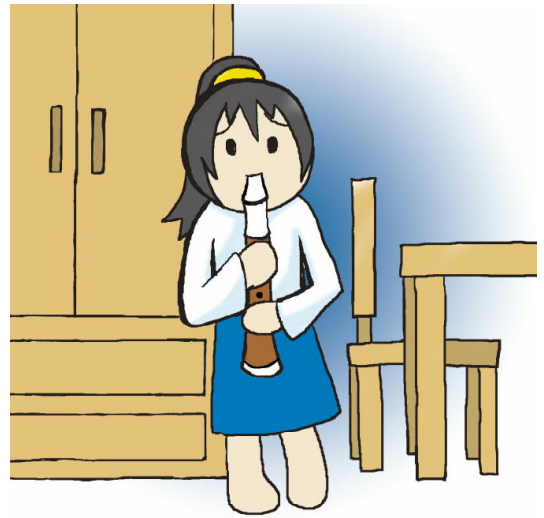
例えば、いつも間違うところを一緒に練習したり、うまく吹ける「コツ」を教えてあげたりするというのはどうでしょうか？

□ そうすれば、すばらしい合奏ができたという喜びに加えて、「みんなの協力」という宝物までついてくるはずですよ。

せいっぱいやっているのに・・・

いえ まいにちれんしゅう
家でも毎日練習しているのに
そんな言い方しなくても・・・

わたしたちは、音楽会に向けて合
そうの練習に毎日取り組んでいます。
わたしは、たて笛をたんとどうして
います。家でも練習していますが、
どうしてもうまくふけない所があります。



みんな 「いつも同じところでまちがうね。」

「家でちゃんと練習してるの？」

わたし 「みんなにめいわくをかけたくない
から、家でも練習してるわよ。」

みんな 「一人でもまちがうと、音楽が乱れ
るんだから。」

「まちがわないように、もっと練習
してよ。」

わたし 「分かっているわよ・・・」

みんなにめいわくをかけているのは分かるけど、そんな言い方
をしなくても・・・。